

別紙 1

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	久慈市立侍浜小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数 12
学級数	1	1	1	2	1	1	1	8	
児童数	25	31	28	41	35	28	4	192	

研究の概要

1 研究主題

自分の考えを豊かに表現できる児童の育成を目指して
～国語科、算数科、特別支援での基礎・基本の指導から～

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

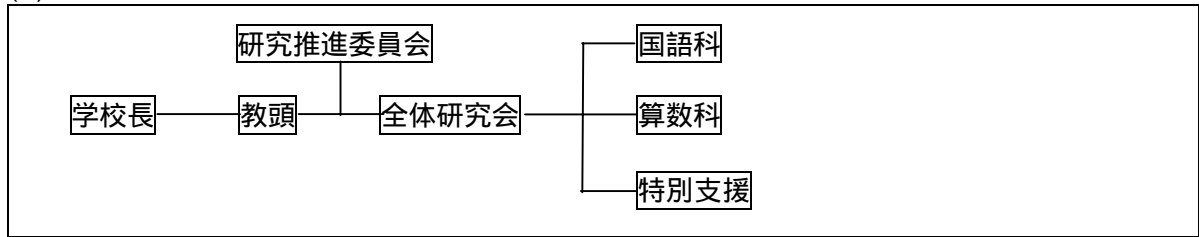
- ・ 第5学年 国語
CRT等の分析結果や日常の学習の様子から国語科における基礎・基本と表現する力が十分定着しているとは言い難いため。
- ・ 第3、4、6学年 算数科
CRT等の分析結果や日常の学習の様子から算数科における基礎・基本と表現する力が十分定着しているとは言い難いため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TT指導、習熟度別指導での指導体制、指導形態、指導過程の工夫を行いながら指導の在り方を明らかにしていく。 <p>研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導体制、指導形態、指導過程を工夫し、さらに個に応じたきめ細やかな指導を重視しながら表現する活動を取り入れたならば、豊かに表現できる児童が育つであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TT指導、習熟度別指導の在り方 ・ 自分の考えを豊かに表現できる児童の育成指導について（基本構想、単元計画、指導過程等） <p>* いずれも授業実践を通しながら、検証していく。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TT指導、習熟度別指導での指導体制、指導形態、指導過程の工夫を行いながら指導の在り方を明らかにしていく。 <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導体制、指導形態、指導過程を更に工夫・改善し、個に応じたきめ細やかな指導を重視しながら各教科毎に表現する活動を明確に取り入れたならば、豊かに表現できる児童が育つであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TT指導、習熟度別指導の在り方 ・ 自分の考えを豊かに表現できる児童の育成指導について（国語科、算数科、特別支援での授業実践の検証、TT指導、習熟度別指導の単元配列表等） <p>* いずれも授業実践を通しながら、検証していく。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究の成果

児童一人一人の実態に応じた効果的な指導法と指導体制

指導形態、指導過程の工夫を通して

(1) T T指導の充実

国語科、算数科で学級担任と研究担当の1 C 2 Tの指導体制で実施した。T T指導が児童の学習に有効に機能するよう、指導形態や評価の在り方などを指導者同士で話し合ったり、校内研究会の中で検討したりして充実に努めた。

レディネステスト(算数科)を単元の前に行うことにより、児童、学級全体の定着状況を把握することができ、指導のポイントが明らかになり、それを基にして毎時間の授業の中に生かすことができた。

校内研究会や指導者同士の話し合いから、指導形態の在り方が徐々に確立されてきた。(以下は、算数科での指導形態、効果的と思われる評価の観点・役割・場面のみ記述。)

【パターン1】...一斉指導型(関心・意欲・態度重視の場合)

T 1 中心の一斉指導、T 2 児童の実態把握、机間指導、評価

T 2 中心の一斉指導、T 1 意図的指名、机間指導、評価

【パターン2】...相互指導型(数学的な考え方重視の場合)

T 1、T 2 が相互に指導、「導入～展開(一人学び)」と「展開(練り合い)～終末」に分かれて分担

【パターン3】...個別指導重視型(表現・処理、知識・理解重視の場合)

T 1 一斉指導 個別指導、T 2 は実態把握、グループ分け

個別指導 一斉指導、どちらかが進め、練習、発展問題を中心に習熟を図る。

(2) 習熟度別指導の確立

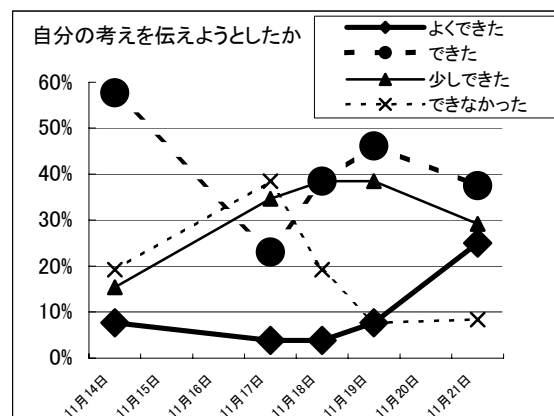
習熟度別指導の在り方を明らかにするために、算数科について2回の研究授業を実施した。オリエンテーションの在り方、児童の自己選択のためのコースの分け方、自己評価カードの有効性、妥当性について検証したいと考え、習熟度別指導(コース別)を取り入れ実施した。今後の指導に生かすため単元終了後、児童、保護者へのアンケートも行った。

～自己評価カードから～

自己評価カードの結果の変容を見ると、徐々にではあるが、コース別学習をすることによって自分の考えを伝えようとしていたことが分かる。

11月14日と11月21日を比較してみると、よくできた8% 25%、少しできた15% 29%と増え、できなかったが19% 8%と減っている。

これにより、コース別学習に取り組んだことで自分の考えを伝えようとする(表現しよ



うとする) 児童が増えてきたことが分かる。

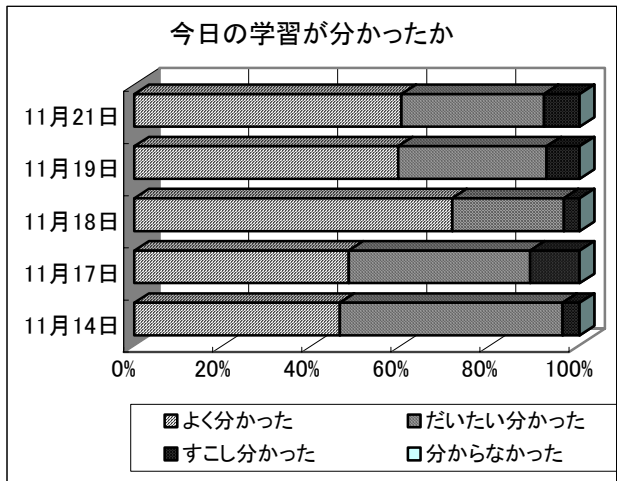
～自己評価カードから～

学習内容の理解の状況を見ると、理解できていると考える児童が増えている。11月14日と11月21日を比較してみると「よく分かった」46% 60%、「だいたい分かった」も含めると92%になる。

これにより、コース別学習にすることによって児童の学習内容の理解は、上がってきていると言える。

2回の習熟度別指導の研究授業を行うことで、一単位時間の指導過程が明らかになってきた。

(以下に、2コースの指導過程の違いを示す)



<指導過程の重点の違い>

過程	ぐんぐんコース(習熟度下位)	どんどんコース(習熟度上位)
つかむ	レディネスをしっかりと揃えて指導を開始し、意味理解や考え方の確かな定着を図るための指導・活動に時間をかける。 関連既習事項や身の回りの事柄との接点を十分に図りながらつかませる。	より発展的な課題(質的上位)やより多くの課題(量的上位)への取組に時間をかける。 導入を最小限に留め、自力解決の時間を確保する。
やってみる	自力解決に重点を置く。一人一人に応じたきめ細やかな支援計画のもと、児童がじっくりと考え、自ら試行錯誤を繰り返しながら理解し習得するための時間を十分に確保し、考え方や方法をしっかりと学ばせる	自力解決の部分は、ポイントを中心に確認程度にし、自らのペースでたくさん課題に取り組むための時間を確保し、表現・処理のスピードを上げたり、知識・技能のレベルを高めたりさせる。
まとめる	まとめも「どんどんコース」よりしっかりと扱う。	まとめは簡単に行い、自分の理解に応じて練習問題、発展問題を行う。

2 今後の課題

- レディネステストを効果的に活用したT T指導、習熟度別指導について教材開発及び補充指導とその時間の確保も含めて、更に充実した取組を進めること。
- 児童の学力分析(CRT、学習定着度状況調査)を生かしながら、児童一人一人の実態を細かく分析し、領域別の補充指導を習熟度別指導の中で、更に充実させていくこと。
- 国語科、算数科、特別支援の授業実践を積極的に行いながら、表現力を育成する指導の在り方を更に明らかにしていくこと。
- 家庭学習の進め方や内容について引き続き児童に指導したり、家庭に知らせたりしながら、更に充実するように努めること。
- T T指導や習熟度別指導の様子を家庭、地域などに発信し、更に連携を深めること。

学力等把握のための学校としての取組

< C R Tによる学力分析・12月 >

観点別学習到達度検査を行い、児童の学習の定着状況を把握しながら、日常の教科指導に生かす。

< 学習に関するアンケート（話すこと、T T指導に関すること）・7月・2月 >

児童の学習に対する意識調査を行い、意欲と取組方の変容を見取る。

< コース別学習（習熟度別）に関するアンケート（児童・保護者）単元終了後 >

児童、保護者に対するコース別学習についての意識調査を行い、コース別学習の今後の取組に生かす。

< 放課後の過ごし方調査アンケート・2月 >

児童の放課後の家庭での過ごし方について調査を行い、家庭学習の状況を把握し、今後の指導に生かす。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1 研究成果普及のためのHP作成

2 フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための他校への校内研究会参加における指導、助言

* 市内の学力向上及び学校運営会議において本校の実践を発表し、多くの質疑に答えた。本校の実践について協議を重ねたことで、他校の先生方の参考になったと思われる。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
- 13～18学級 19～24学級
- 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
- 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
- 生活 音楽 図画工作 家庭
- 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無